

特定漁港漁場整備事業計画書

1 目的

目的
<p>(1) 地域の特徴</p> <p>江口地区は、鹿児島県薩摩半島中部の日置市（平成17年5月1日、東市来町、伊集院町、日吉町、吹上町の4町の合併により誕生）にあり、日本三大砂丘のひとつである吹上浜の北端に位置しており、風光明媚な景観を有しており、温暖で降水量も多いことから自然にも恵まれている。また、当該地区は、漁業や水産加工業等に加え、市街地から近くアクセスの利便性が良いことから、江口浜海浜公園や江口蓬莱館等が観光客等で賑わうなど都市と漁村の交流も盛んである。</p> <p>(2) 水産業の沿革と現状</p> <p>江口地区は、沖合に多種多様な水産動植物が生息する東シナ海を有しており、比較的良好な漁場に恵まれている。当該地区では、古くからシラスの船びき網漁業を中心とした漁業形態が営まれてきており、シラスは水産物の陸揚量の約7割を占めている。この陸揚げされたシラスについては、漁港内の加工施設でチリメンジャコに加工されており、江口地区の主要産業となっている。</p> <p>また、近隣の漁協が運営する「江口蓬莱館」では、地元で陸揚げされた新鮮な魚介類等が販売・提供されており、平成15年度のオープンから大勢の来場者で賑わい、営業開始から11年目の平成26年7月には、入館者500万人に達したところである。</p> <p>(3) 漁港漁場整備の沿革と役割</p> <p>江口漁港は、昭和37年1月に第2種漁港に指定され、沖合の恵まれた好漁場を背景に周辺海域の中心的な漁業基地として、漁港施設が整備されてきた。また、近年は、藻場造成、マダイやヒラメの稚魚の放流、イカの産卵床など、水産資源の維持・増大に対する取組を行っている。</p> <p>(4) 当該事業計画の目的</p> <p>①水産物の安定的な提供・国際化に対応できる力強い水産業づくりの推進</p> <p>1) 安全で快適な漁業地域の形成</p> <p>当漁港は、漁場で操業可能な波高であっても、港口付近では船が動揺するなど、漁船の安全航行が確保されていない。</p> <p>また、夏季の南からの季節風で港口付近に吹き寄せられた堆砂が、冬場の北西の季節風により港内に移動するため、漁船の安全な航行に必要な航路幅や水深等が不足する状況となり、潮待ちや座礁による漁船の船体破損等が生じている。</p> <p>さらに、係留施設不足による多層係留が生じているとともに、潮位の干満差が大きいことから水産物を陸揚げする際に多大な労力を必要としており、作業効率性が悪く、危険も伴っている。</p> <p>加えて、本地区は通常時も風が強い地域であり、漁船の接岸及び陸揚作業に時間を要し、休けい時においても、係留施設不足のため、防波堤背後や護岸等への多層係留を余儀なくされている。</p> <p>このため、漁船の安全な航行の確保対策、漂砂対策、防風対策及び就労環境の改善等の作業の効率化及び作業環境の改善等を図る。</p> <p>2) 水産物流通の効率化</p> <p>当漁港では、これまで魚介類は加工向けに、シラスについては釜揚げ加工を行い出荷してきたが、魚価向上を目的に「江口蓬莱館」で、地元で陸揚げされた新鮮な魚介類や「生シラス」等を販売・提供を行ったところ、それらの出荷量が順調に増加してきたところである。</p> <p>しかし、荷さばき所内に日が差し込むことによる鮮度低下や漁獲から加工までに時間の制約がある「生シラス」についても、水深不足によるシラス運搬船の潮待ち及び航行速度の制限が支障となり、出荷量の増加や安定的な出荷に対応できていない状況である。</p> <p>このため、物揚場に庇等の整備を行い、品質・衛生管理対策を推進するとともに、水域施設の整備等を行い、水産物流通の効率化と安定的な水産物の供給体制の確保を図る。</p>

2 施行に係る区域及び工事に関する事項

(1) 区域に関する事項

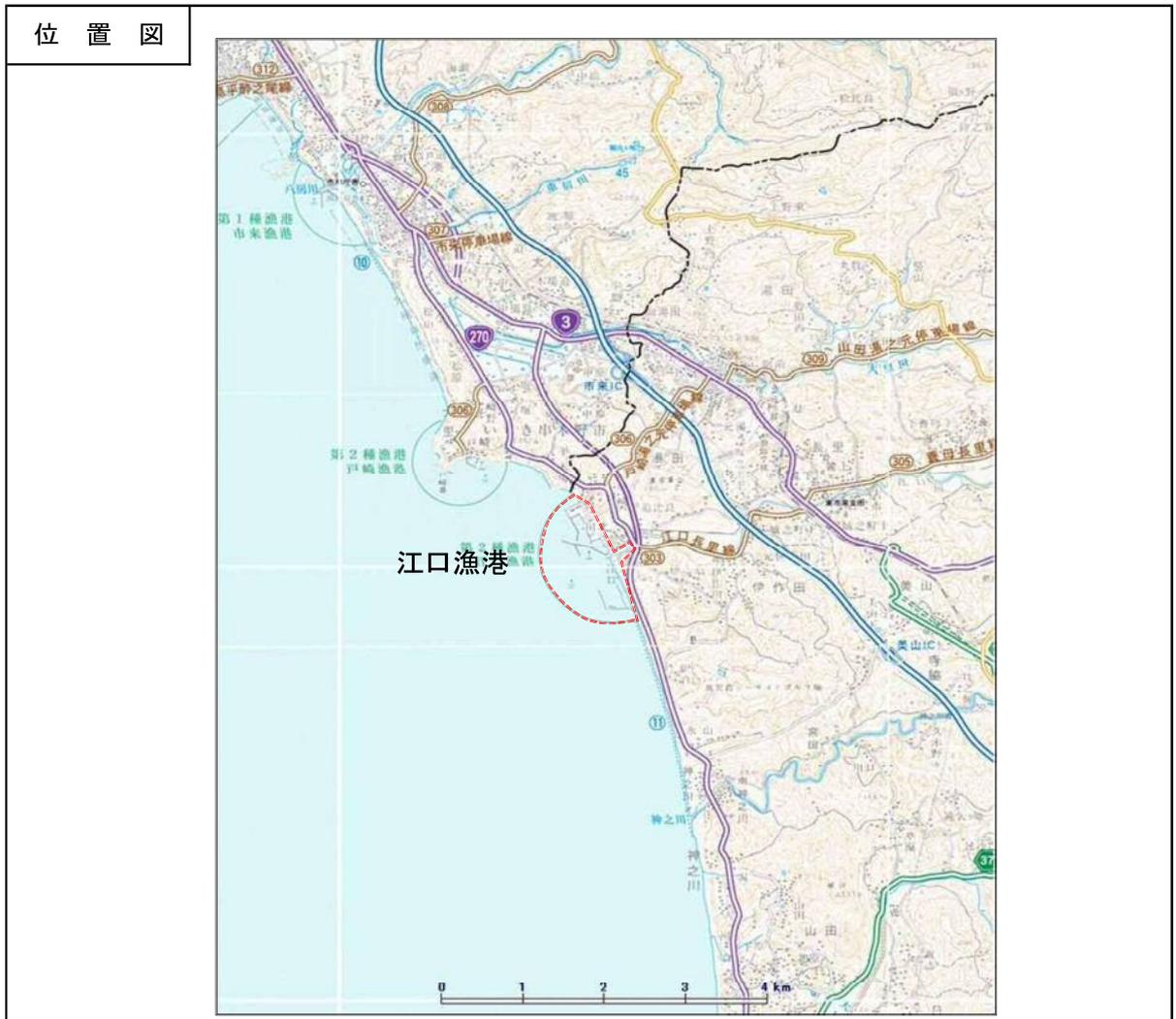
イ 区域名

区域名	江口地区
-----	------

ロ 所在地等

都道府県名	鹿児島県	関係市町村名	日置市
地域指定	過疎法、半島法		
整備対象漁港名	江口漁港	整備対象漁場名	—

ハ 位置図



江口漁港全景



平成17年11月撮影



平成26年8月撮影

状況写真



沖防波堤（新設）
通常荒天時において、港内の静穏度が確保されておらず、漁船を安全に係留することができない。

平成14年3月撮影

状況写真

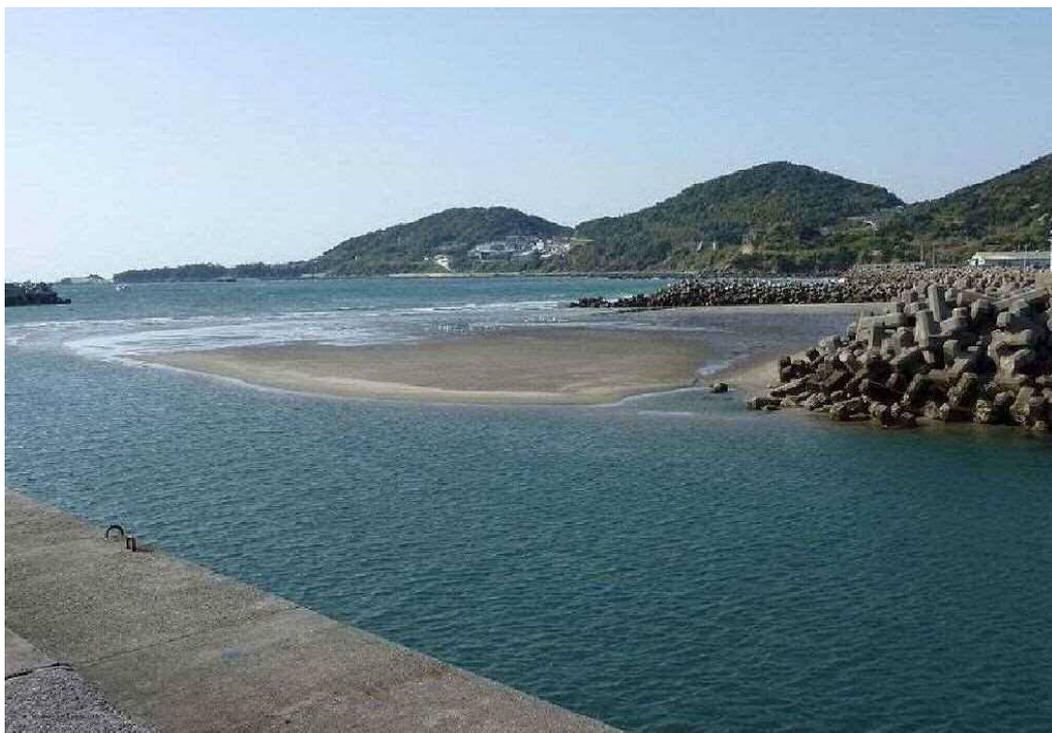


沖防波堤（新設）

通常荒天時、航路の静穏度が確保されておらず、漁船が安全航行できない。

平成14年3月撮影

状況写真



防砂堤、-3m泊地
-2m航路や泊地においては、漂砂堆積による航路・泊地の埋塞により、漁船の安全航行に支障が生じている。

平成27年9月撮影



防砂堤、-3m泊地
漁船は、漂砂堆積箇所を避けながら航路内を航行している。

平成27年9月撮影

状況写真



－ 3 m 航路

漁船は、漂砂堆積箇所を避けながら防波堤沿いの航路内を航行しており、対向漁船を待つ必要があるなど、漁業活動に支障をきたしている。

平成 27 年 9 月 撮影



－ 3 m 泊地

既設 2 m 泊地の航行は、比較的水深の確保された水域を航行してはいるが、砂を巻き上げている状況である。

平成 27 年 9 月 撮影

状況写真



浮棧橋（新設）

荷さばき所前面の－2m物揚場に漁船を係留し、水産物の陸揚げを行っている。

平成27年9月撮影

状況写真



浮棧橋（新設）

干満差が約3m程度あり、水産物の陸揚げの際、多大な労力が必要であり、作業効率が悪いと同時に危険を伴う作業となっている。

平成27年9月撮影

状況写真



－2 m物揚場（改良）

荷さばき所内においては、水産物の競りを行う時間帯に日が差し込むことから、鮮度低下が生じている。

平成27年9月撮影



－2 m物揚場（改良）

荷さばき所から－2 m物揚場までは、エプロンからの排水のため10%程度の勾配が設けられているため、水産物の台車運搬の際、多大な労力を費やしている。

平成27年9月撮影

荒天時の他港（串木野漁港）への避難状況



台風時は波の影響を受ける前に他港（串木野漁港）へ避難し、台風通過後から漁業再開まで1週間を要するため、漁業活動に支障をきたしている。

二 当該区域の水産業の現況、課題及び整備方針

当該区域の水産業の現況、課題及び整備方針	
<p data-bbox="225 315 1165 347">1. 水産物の安定的な提供・国際化に対応できる力強い水産業づくりの推進</p> <p data-bbox="245 347 638 378">①安全で快適な漁業地域の形成</p> <p data-bbox="245 394 387 425">現況、課題</p> <p data-bbox="220 443 1414 535">江口地区は、漁場で操業出来る波高であっても、港口付近では船が動揺するなど、漁船の安全航行が確保出来ていないため、漁港内において待機等を行っている状況があり、漁業活動に支障が生じている。</p> <p data-bbox="220 535 1414 656">また、夏季の南からの季節風で港口付近に吹き寄せられた堆砂が、冬場の北西の季節風により港内に移動するため、港口付近の航路幅及び泊地面積が狭隘となっている状況があり、潮待ちや低速航行を行うなど安全を確保しつつ航行してはいるが、座礁による漁船の船体破損や動揺による船体への影響が生じている。</p> <p data-bbox="220 656 1414 748">さらに、本地区は通常時も風が強い地域であり、漁船の接岸及び陸揚作業に時間を要し、休けい時においても、係留施設不足のため、防波堤背後や護岸等への多層係留を余儀なくされている。</p> <p data-bbox="220 748 1414 808">加えて、潮位の干満差が大きいことから、水産物を陸揚げする際、多大な労力を必要とするため、作業効率が悪く、危険も伴っている。</p> <p data-bbox="245 927 360 958">整備方針</p> <p data-bbox="220 976 1414 1068">漂砂の影響等を解消し、港口における安全な船舶航行を確保するため、沖防波堤や防砂堤等を整備する。また、効率的な漁業活動を確保するため、－2m物揚場の改良、防風柵及び浮棧橋等を整備する。</p> <p data-bbox="220 1068 1414 1128">これらの整備により、漁船の安全な航行の確保対策、漂砂対策、防風対策及び就労環境の改善等を実施することで、作業の効率化及び作業環境の改善等を図る。</p> <p data-bbox="245 1189 526 1220">②水産物流通の効率化</p> <p data-bbox="245 1236 387 1267">現況、課題</p> <p data-bbox="220 1285 1414 1346">江口地区においては、水産物の競りを行う時間帯に荷さばき所内に日が差し込むため、魚体温上昇による鮮度低下が生じている状況である。</p> <p data-bbox="220 1346 1414 1532">また、当地区の主な取扱魚種にシラスがあるが、釜揚げ加工による出荷形態であったため、これまではシラス運搬船等は、潮待ちや航行速度の制限などを行い水揚げを支障なく行ってきたが、平成26年度から魚価向上を目的に、「生シラス」の製品開発を行い、背後の蓬莱館等で提供したところ評判もよく出荷量が増加してきたところであるが、「生シラス」は、漁獲から加工までに時間の制約があり、潮待ち等を行う従来の水揚げでは、これ以上の出荷量の増加に対応できない状況である。</p> <p data-bbox="245 1592 360 1624">整備方針</p> <p data-bbox="220 1641 1414 1733">水産物流通の効率化と魚価向上のため、物揚場に庇等の整備を行い、品質・衛生管理対策を推進するとともに、水域施設の－3m航路・泊地の整備等を行い、安定的な生シラスの供給体制の確保を図る。</p>	

ホ 整備対象漁港及び整備対象漁場の現況及び将来見通し

(現況)

(平成24年12月現在)

整備対象 漁港名	属地陸揚量	743 トン	属地陸揚金額	393 百万円	属人漁獲量	743 トン
	登録漁船隻数	134 隻	利用漁船隻数	134 隻	漁船以外利用船舶隻数	0 隻
江口漁港 (第2種)	主な漁業種類 船びき網、刺網			主な魚種 いわし類(しらす)、たい類、さわら類		

(将来見通し)

(目標年：平成36年)

整備対象 漁港名	属地陸揚量	743 トン	属地陸揚金額	393 百万円		
江口漁港 (第2種)	登録漁船隻数	134 隻	利用漁船隻数	134 隻	漁船以外利用船舶隻数	0 隻

将来見通しの考え方

〈属地陸揚量〉

属地陸揚量の平成11年～平成24年の港勢データを見ると、平成11年の1,712トンが平成15年には609トンへ、極端に減少しており、その後、平成16年から平成17年にかけて、1,464トンまで回復したものの、平成18年から、再度、減少傾向が続いている。しかし、平成20年から現在までの5ヶ年平均を見ると約800トン前後で推移している。

そのため、平成36年の目標年次における属地陸揚量が大きく増加することは難しいが、現状維持はできるものと判断し、現況と同程度と推定した。

〈属地陸揚金額〉

属地陸揚金額の平成11年～平成24年の港勢データを見ると、概ね属地陸揚量に比例しているが、属地陸揚金額は、属地陸揚量や市場の相場に左右され、増減の変動を正確に把握することが困難であることから、平成36年の目標年次における属地陸揚金額は、現況と同程度と推定した。

〈登録漁船隻数〉

登録漁船隻数の平成11年～平成24年の港勢データを見ると、平成12年以降、毎年、減少傾向が続いているが、平成20年から現在までの5ヶ年平均を見ると144隻前後で推移している。

そのため、平成36年の目標年次における登録漁船隻数は、漁業従事者の高齢化及び後継者不足等により、大きく増加することは難しいが、漁港整備による就労環境改善及び衛生管理対策による漁価の下支えにより、現状維持できるものとし、現況と同程度と推定した。

〈利用漁船隻数〉

利用漁船隻数の平成11年～平成24年の港勢データを見ると、毎年、減少傾向が続いている。さらに、平成22年からは地元登録漁船の利用のみであることから、平成36年の目標年次における登録漁船隻数は、登録漁船隻数と同様に現状維持できるものとし、現況と同程度と推計する。

〈漁船以外利用船舶隻数〉

なし

(2) 工事に関する事項

イ 主要施設の種類、規模及び配置等

(漁港施設)

都道府県名	整備対象漁港名	漁港種類	所管	事業主体名	漁港管理者
鹿児島県	江口漁港	第2種	本土	鹿児島県	鹿児島県
計画施設	計画工事種目	単位	計画数量	備考	
外郭施設	沖防波堤	m	180	① (新設) H17完了	
	港内防波堤	m	98	② 昭和48年築造 H17完了(防風柵)(改良)	
	南護岸	m	393	③ (新設) H14完了	
	北防波堤(B)	m	129	④ 昭和56年築造 H20完了(防風柵)(改良)	
	防砂堤	m	190	⑩ (新設) 一般計画からの移行	
水域施設	-2m泊地	m	40	⑤ 昭和43~44年築造 H26完了(南防波堤撤去)	
	-3m泊地	m ²	16,830	⑪ -2m泊地平成5年築造 (改良)	
	-3m航路	m ²	17,850	⑥ -2m航路平成18~19年築造 (改良)	
係留施設	-2m物揚場	m	210	⑦ (新設) H16完了	
	-2m物揚場	m	60	⑫ 昭和59年築造 嵩上、防暑施設(改良)	
	浮棧橋	基	1	⑬ (新設)	
輸送施設	道路	m	343	⑧ (新設) H18完了	
漁港施設用地	用地(1)	m ²	17,000	⑨ (新設) H23完了	

ロ 工事の着手及び完了の予定時期

着手予定年度	平成14年度	完了予定年度	平成31年度
--------	--------	--------	--------

※平成14年度から平成27年度までは他事業で実施

ハ 計画平面図

計画平面図	別紙のとおり
-------	--------

3 事業費に関する事項

計画事業費	2,442 百万円
-------	-----------

4 効果に関する事項

1. 主要な水産関係別の事業効果	
	<p>1. 水産物の安定的な提供・国際化に対応できる力強い水産業づくりの推進</p> <p>(1) 安全で快適な漁業地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none">▪ 外郭施設及び係留施設等の整備による係留作業時間の削減▪ 防波堤等の整備に伴う漁船の耐用年数の延長▪ 漁船修理費の削減▪ 浮棧橋や防暑対策用屋根の整備による陸揚げ作業の安全性・快適性の向上▪ 台風時等の避難回数の減少 <p>(2) 水産物流通の効率化</p> <ul style="list-style-type: none">▪ 物揚場改良での屋根の整備による衛生管理対策の向上▪ 外郭施設等の整備による出漁・帰港時における港内航行時間の削減▪ 外郭施設等の整備に伴い、年間出漁回数の増加による漁獲量の増加
2. 地域に与える影響	
	<p>「安全で快適な漁業地域の形成」と「水産物流通の効率化」の効果により、漁業活動の効率化が図られ、シラス漁を含めた水産物の更なる流通の拡大が想定され、地元の水産加工業をはじめとした地域水産業への経済波及効果が見込まれる。</p>

3. 費用対効果分析結果			
社会的割引率	4.0%	投資期間	平成14年度～平成31年度
現在価値化の基準年度	平成27年	施設の耐用年数	50年
貨幣化による分析結果			
	分析結果		
貨幣化した効果項目	○水産物生産コストの削減効果 ○漁獲機会の増大効果 ○漁業就業者の労働環境改善効果 ○避難・救助・災害対策効果		
総便益額B	4,142百万円		
総費用額C	4,015百万円		
費用便益比率(B/C)	1.03		
参考	純現在価値:(B-C)	126百万円	
	内部収益率:(IRR)	5.30%	
4. 事業の定量的・定性的効果(貨幣化が困難な効果)			
<ul style="list-style-type: none"> ・漁港背後集落等への防風・防潮効果 ・浮棧橋及び防暑施設の整備に伴う、活魚等の魚価低下によるの損失減少効果 			

5 環境との調和に関する事項

環境との調和に関する事項
<p>江口地区の漁港施設の整備による本地域内に及ぼす影響はほとんど無いものとするが、浮棧橋や庇の設計にあたっては、必要に応じて、周辺環境に配慮した施設整備に努めることとする。</p> <p>また、-3m航路及び-3m泊地の施工にあたっては、海域に影響のないよう水質汚濁等の発生を極力抑えるように努めることとする。</p>

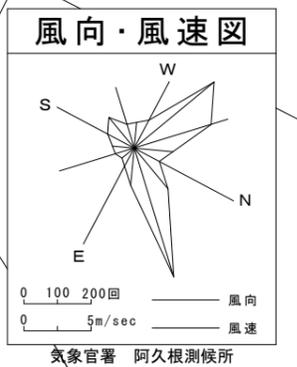
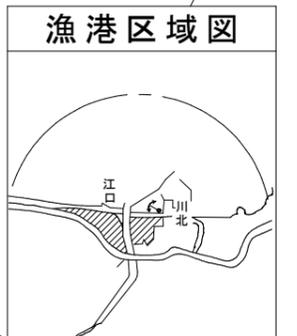
6 他の水産業に関する施設との関係に関する事項

施設名	施設規模・内容	本事業との関係	備考
江口蓬莱館	物産館、レストラン 919m ² 水産加工場 363m ² 駐車台数 122台	江口漁港で陸揚げされた、魚介類の消費拡大と付加価値向上を図ることにより、漁業従事者の所得向上と経営安定を目指すほか、地域活性化の拠点となっている。	-

漁港漁場整備長期計画
江口漁港水産生産基盤（特定）整備事業
計画平面図

漁港番号	種別	所管	事業主体	管理者	施行場所
4920080	第2種	本土	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県日置市東市来町江口地内

S = 1 : 3, 000



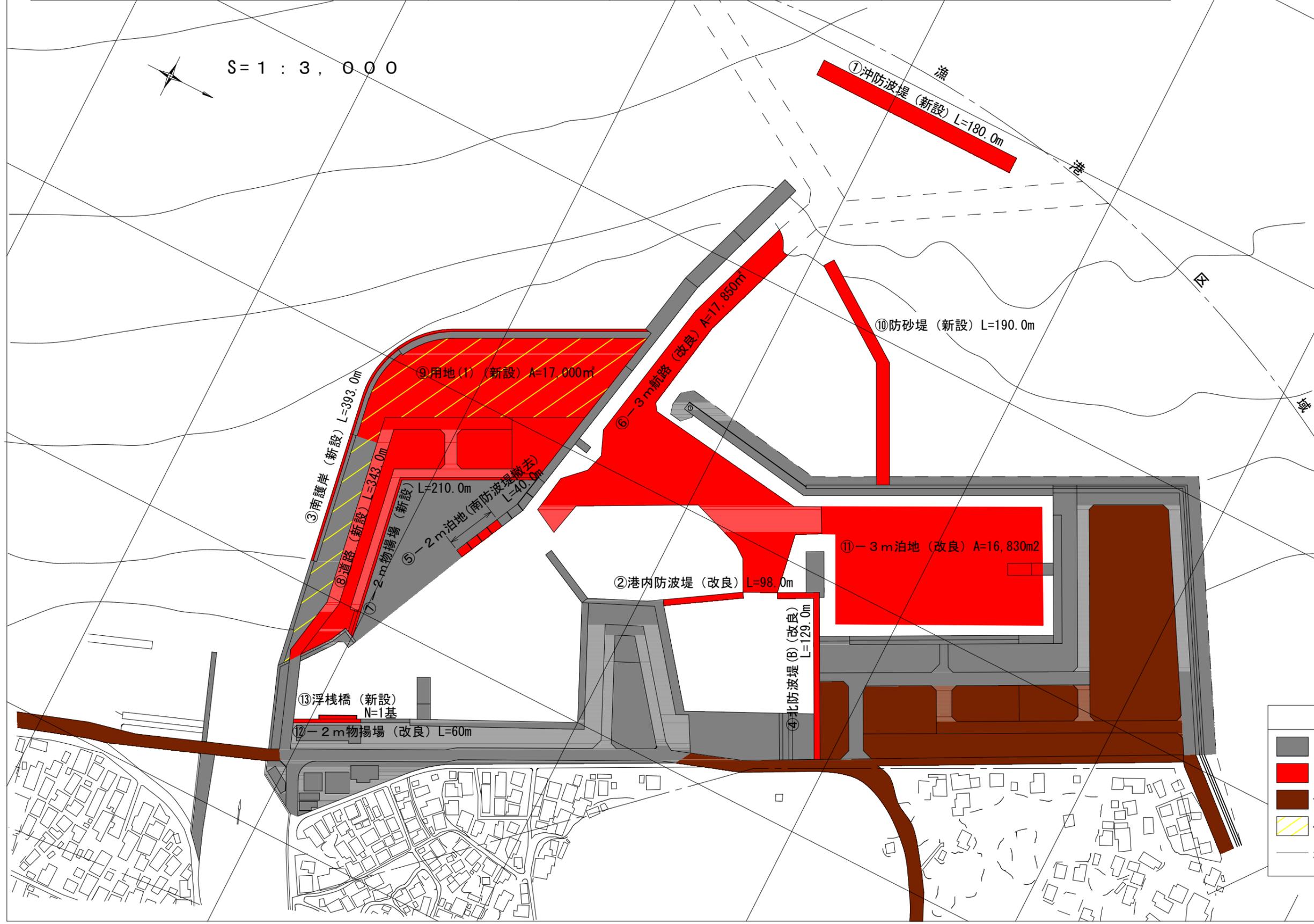
潮位図 (Tide Chart)

H.H.W.L	+4.25
H.W.L	+3.25
T.P	+1.60
M.L.W.L	+0.80
L.W.L	±0.00

凡例 (Legend)

- 平成13年度迄 (Up to Heisei 13)
- 当該事業計画 (This project plan)
- 他事業（平成13年度迄） (Other projects up to Heisei 13)
- 他事業（平成14年度以降） (Other projects from Heisei 14 onwards)
- 漁港区域 (Fishing port area)

(告示：H18.3.14 第452号)



当初計画